

■高校野球のケーススタディー（第25回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 2022年度の投球姿勢に関する規則改正って・・・どんな内容なの？

2022年度の規則改正では、投球姿勢に関する改正があったようですが、どのような内容でしょうか。

2022年度の公認野球規則（OBR）の投球姿勢に関する改正は、次のとおりです。

① ワインドアップポジション 「5.07(a)(1)【注1】」を削除

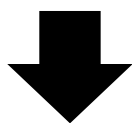
『投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手板に触れて置き、他の足の場所には制限がない。ただし、他の足を投手板から離して置くときは、足全体を投手板の前縁の延長線より前に置くことができない。』の文言が削除されました。

⇒ この改正により、社会人野球や大学野球など他のアマチュア野球では、ワインドアップポジションにおいて、軸足を投手板に触れて置き、自由な足については置き場所の制限がなくなりました。

② セットポジション 「5.07(a)(2)【注1】」を削除

『アマチュア野球では、本項【原注】の前段は適用しない。』の文言が削除されました。

⇒ この改正により、社会人野球や大学野球など他のアマチュア野球では、セットポジションをとった投手は、走者がいない場合、必ずしも完全静止をする必要がなくなりました。



高校野球では・・・

【高校野球特別規則 27 投手の投球姿勢】

投手の投球姿勢について次の通りとする。

(1) ワインドアップポジション

- ① 投手は、打者に面して立ち、軸足は投手板に触れて置き、他の足の置き場所には制限はない。ただし、他の足を投手板から離して置くときは、**足全体を投手板の前縁の延長線より前に置くことはできない。**
- ② このように足を置いてボールを両手で身体の前方に保持すれば、ワインドアップポジションをとったとみなされる。

●高校野球では・・・

投球姿勢の混乱を避けるため、ワインドアップポジションでの足の位置を制限して、自由な足の位置でワインドアップポジション、もしくはセットポジションの区別をすることとしました。

(2) セットポジション

- ① 投手は、打者に面して立ち、軸足は投手板に触れて置き、他の足を投手板の前方に置き、ボールを両手で身体の前方に保持して、完全に動作を静止したとき、セットポジションをとったとみなされる。
- ② **セットポジションをとった投手は、走者が塁にいない場合でも、必ず完全に動作を静止すること。**

●高校野球では・・・

走者がいないときにセットポジションで完全静止しないことにより、意図的に投球動作を変えて投球することも想定され、セットポジションからの投球動作に乱れが生じる恐れがあるため、当該規則を設けることとしました。

昨年度、地区大会や県大会において、『二段モーション（自由な足を上下させる動作）』で指導された投手が多かったようです。高校野球では、二段モーションについてどのように取り扱われるのでしょうか。

『二段モーション』とは、投手が自由な足を上げた際に上下させる動作（スムーズに行わず、ことさら段階を付ける動作）を言いますが、高校野球では、次のように高校野球特別規則の中で「反則投球」の1つとしてルールに違反した投球動作とされています。

【高校野球特別規則 28 反則投球の取り扱い】

高校野球では「反則投球」の適用は、次のものとする。

- (1) 投手がワインドアップポジション (5.07(a)(1)) およびセットポジション (5.07(a)(2)) に規定された投球動作に違反して投球した場合 (**投球動作をスムーズに行わず、ことさら段階を付ける動作を含む。**) ← 二段モーション



これに対して、二段モーションについてプロ野球、社会人野球、大学野球では、公認野球規則 (OBR) の規定に基づいています。

公認野球規則では、どのように規定されているのか変遷を見てみましょう。

● **2019 年度までの規定**

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。(規則 5.07(a)(1)① Windアップポジション、5.07(a)(2)② セットポジション)

- ① 「途中で止める」とは ⇒ 投手が投球動作中に、故意に一時停止すること。
- ② 「変更する」とは ⇒ 投球動作をスムーズに行わずに、ことさら段階をつけるモーションをしたり (⇒二段モーション)、手足をぶらぶらさせて投球すること。
(中途・変更の定義：規則 5.07(a)(2)【注 2】)

※このように 2019 年までは、プロ野球、社会人野球、大学野球においても二段モーションは、投球関連動作の変更として、規則に違反する投球とされていました。

● **2020 年度の改正**

打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。(規則 5.07(a)(1)① Windアップポジション、5.07(a)(2)② セットポジション)

- ① 「中断する」とは ⇒ 投手が投球動作を起こしてから途中でやめてしまったり、投球動作中に一時停止したりすること。
- ② 「変更する」とは ⇒ Windアップポジションからセットポジション (または、その逆) に移行したり、投球動作から塁への送球 (けん制) 動作に変更すること。
(中断・変更の定義：規則 5.07(a)(2)【注 2】)

※このように 2020 年度の改正では、「二段モーション」に関する記述がなくなり、投球動作の中断・変更には当たらないとして、ペナルティが課されなくなりました。

また、「二段モーション」については、アマチュア野球内規の中での規定がありません。プロ野球、社会人野球、大学野球では、二段モーションにおいては、公認野球規則 (OBR) の規定に基づき運用されていることが分かります。

裾野の広い高校野球では、「正しい投球姿勢 (スムーズな投球姿勢)」の励行・徹底が重要であることから、前記のとおり高校野球特別規則の中で、二段モーションは違反した投球であることを明確にしています。高校野球の投手や指導者の皆さんは、この機会に投球姿勢に関するルールを十分に理解し、スムーズな投球動作を身に付けてください。

【参考】

高校野球の試合では、「公認野球規則 (OBR)」、「アマチュア野球内規」、「高校野球特別規則」の 3 つのルールを適用しています。他の組織とは、適用するルールが異なりますので、下記のとおり整理しておきます。

	高校野球	プロ野球	社会人野球	大学野球
公認野球規則 (OBR)	適用	適用	適用	適用
アマチュア野球内規	適用	×	適用	適用
高校野球特別規則	適用	×	×	×